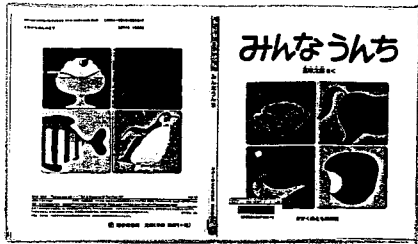


## 子どもたちといっしょ「かがくのとも傑作集」 (福音館書店)

「かがくのとも傑作集」は、本当に文学どうりの傑作が多い。右の「みんなうち」は、おとなにも人気のある絵本である。そして、ちいさな子どもも、言葉の意味がわかれば、笑い声をあげて喜ぶのである。「おおきいうちはおおきいうち、ちいさいうちはちいさいうち」といふと、子どもは喜んで「おおきいうちはちいさいうち、ちいさいうちはおおきいうち」といふようになる。ユーモラスに、適格に、「うち」というものを、わかりやすく表現して伝えている。小学校低学年のクラスに、初めて持っていくと、それはそれで大ウケする。このほか、からだに関するもの、おはなし、「おはなし」、「おはなし」、「おはなし」、「おはなし」などがある。ご家族で、読んでみてください。



# しろね図書館だより

発行 白根市立図書館  
No. 11  
平成13年4月1日

いつもご利用ありがとうございます。新しい年度も、たくさんの方のご利用お待ちしております。今年度から、休館日は、毎週月曜日・毎月末日・年末年始(12月29日〜1月5日)・蔵書点検期間(2月の2週間)になりました。上記以外の祝日は開館します。また「しろねとしかんカレンダー」もできますので、ごりようください。

3月の  
来館者----- 10,363人(見学者17人)  
貸出冊数----- 12,622冊  
予約件数----- 281件  
ブックバス利用者----- 229人  
" 貸出冊数----- 750冊

リクエスト情報 (しばらくお待ちください)  
1位:「命」12人  
2位:「かねもち父さん貧乏父さん」11人  
3位:「4-ズはまどこへ道へた」7人  
4位:「ハリー・ポッターと賢者の石」4人  
"・「話を聞かない男 地図の読めない女」4人

## 第6回読書会 竹内紀吉著 「図書館の街 浦安」 (新世館長奮闘記)

4月15日(日) 1:30~3:30  
1L-42で開催します  
1983年浦安市立中央図書館が開館した翌年、日本で始めて、年間市民1人当りの貸出冊数10.8冊を達成。今もなお、先進図書館のトップとして、発展を続ける秘密は? どのような参加ができます。本は、カウンターでお渡しします。...

「おはなし会」「ブックトーク」の出前をします  
小学校・中学校・高等学校へおはなし会やブックトークの出前をしております。ご希望校は図書館にて相談下さい。(072)5510

今月も、皆さまの原稿をお寄せください。投稿してください。皆様のおかげで、今年度も、この本が、みなさんに、おはなしをして、楽しんでいただいております。皆様のおかげで、今年度も、この本が、みなさんに、おはなしをして、楽しんでいただいております。...

4月の行事 ブックバス運行

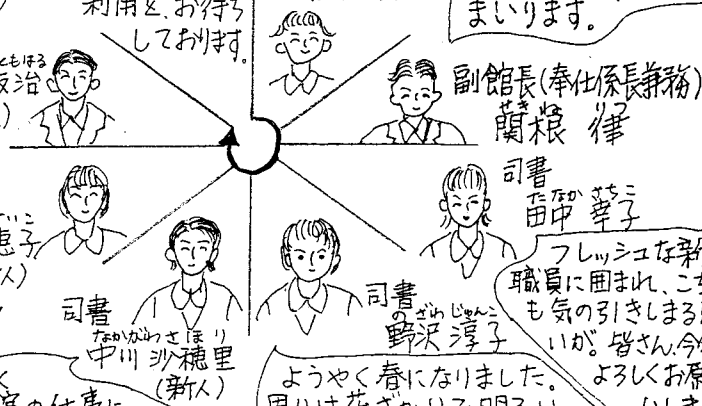
4 (水)	絵本のじかん 3:00~	
7 (土)	おはなし会 3:00~ ゲスト スペース(ALTI)	
8 (日)	しろね図書館友の会 総会 1:30~1L-42	
11 (水)	絵本のじかん 3:00~	新飯田中 12:55~13:40 芝増程小 14:10~15:15 左瀬中 12:55~13:35 左瀬地生 14:00~14:40 左瀬小 15:00~15:45
12 (木)		
13 (金)		臼井中 15:40~16:40
14 (土)	おはなし会 10:00 おはなし会 3:00~	大通地生C 14:00~14:30 大野中 14:50~15:20 樟葉小 15:40~16:10
15 (日)	第6回読書会 1:30~ 1L-42	
18 (水)	絵本のじかん 3:00~	大通小 14:45~15:30 樟葉小 16:10~16:40
19 (木)		大鷲小 15:00~15:45 白根中 16:00~16:40
20 (金)		白根小 13:00~14:00 小林小 14:30~15:30
21 (土)	おはなし会 3:00~	新飯田中 14:30~15:00 大野中 15:30~16:00
25 (水)	絵本のじかん 3:00~	新飯田中 12:55~13:40 芝増程小 14:10~15:15 左瀬中 12:55~13:35 左瀬地生 14:00~14:40 左瀬小 15:00~15:45
26 (木)		
27 (金)		臼井中 14:30~15:15 臼井中 15:40~16:40
28 (土)	おはなし会 10:00 おはなし会 3:00~	大通地生C 14:00~14:30 大野中 14:50~15:20 樟葉小 15:40~16:10

今年度の「しろね図書館」は、わたし達が運営します  
新入3人を迎え、年間の開館日も11日増えます。より多くの方のご利用を、お待ちしております。

皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。図書館のカウンターでお待ちして。  
早く図書館の仕事に慣れて、皆様一人一人のご要望にお答えできるように頑張ります。

半数以上が、新しいメンバーでの出発になりました。慣れるまで不手際があると思いますが、よろしくお願いします。館長(司書) 兼村節子  
副館長(奉仕係長兼務) 蘭根律

フレッシュな新入職員に囲まれ、こちらも気の引きまる思いが、皆さん、今年もよろしくお願いいたします。  
ようやく春になりました。周りには花ざかりで明るい様子。私も明るい笑顔で、皆さんをおもてなしたしたいと思います。



# しろね図書館から新潟県へ発信を!

長岡市在住 井上 恵

私は長岡市の住民です。3月10日に長岡中央図書館で絵本講座があり、しろね図書館栗村館長さんが講師ということで出かけていきました。講座のあと、中央図書館の稲川館長さん、司書のみなさんと栗村さん、そしてラッキーなことに私まで加えていただいてひとしきりおしゃべりをしました。

稲川さんは、新潟県史については県内でも有名な方です。私は、稲川さんの教育月報のエッセイを読んだり、山本五十六についての講演をお聴きしたりして、文化に対する見識の確かさや情熱的なお人柄にかなえてより尊敬をしておりました。

稲川さんがおっしゃるには「全国的に見て、新潟県の図書館サービスや住民への貸出冊数は、最低レベルです。貸出冊数は全国の半分くらいだと思います。そんな中で、しろね図書館の取組が新潟県に旋風を巻き起こしてくれと期待しています。」

この3月まで白根に職を得ていた私は、とてもうれしくお聴きました。そして、中央図書館の司書のみなさん。この日は幼児専門の5名が同席しておられました。お話の会やブックトークをする時の悩みや本選びのコツなどを栗村館長さんに次々質問されました。そのたびごとに、栗村館長さんはご自身の体験談をふまえて適切に答えておられました。

私も子育ての時にずっと子供たちに本を読み聴かせていました。来る日も来る日も「うりこ姫とあまんじゃく」ばかり読んでとせがむ息子。あまんじゃくが「指一本だけでええから開けてくれ〜」という場面で、枕をしっかりと握りしめて、ぶるぶる震えて私にくっついてきたのも遠い昔のことになりました。今では、その息子が、「お母さん、中島敦の山月記読んだ?」と訊いたり、娘が買った「24人のグリーンミリガン」や「ソフィアの世界」を読んで、私に解説をしたりするようになりました。

だから、子供に本を読み聴かせるのがもつ力、最初はお母さんでしょうし、小学校では先生でしょうし、中学校では先生の「本の紹介」がもつ力はとても大きいのです。そして、単に本を読むことだけでなく、本を通していろんな人とやりとりをして、人と人の関係を子供は身につけていくのだと私は思います。

その意味で、本が持つ力を知り、子育ての一助に図書館を上手に活用することはとても大事だと私は思うのです。

栗村さんは、住民として図書館サービスの向上に長くかかわっておられました。そして今は逆の立場で、努力を重ねておられます。新潟県で、おそらくこのような方はただ一人ではないかと思います。稲川さんはこのことを鋭く見抜いておられました。稲川さんもとても立派な方で、私は長岡の住民として誇りに思います。稲川さんがおられるからこそ、あのようにな欲的に腕を磨こうとする若い司書さんたちが長岡では育っているのです。そして一方の白根。栗村館長さんの希有な体験をぜひひ生かして、「新潟県に発信するしろね図書館」に育てて欲しいと思います。

昨今の財政事情の逼迫で、図書館の財政は苦しくなると訊いています。しかし、子供が本を読まなくなってしまうたら、読めなくなってしまうたら、それは市民の文化の衰退、市民の民度の低下だと私は思います。そのためのお金を私たちは惜しんではならないと思います。

私が白根に職を得たのは教育関係でした。(ちなみに新飯田中学校です。新飯田の方には本当にお世話になりました。感謝、感謝!です)この分野は未来を担う子供たちを育てることです。そしてここで「本の持つ力」は限りなく大きいのです。新飯田中学校はしろね図書館と栗村さんのおかげで、「朝の読書」を4月よりはじめます。

「本が読める人になって欲しい。本の持つ世界を知って欲しい」、そして「自分と対話できる大人になって欲しい」。新飯田中学校ではそう願っています。その際、公立図書館の援助は不可欠です。白根には幸いにもこんなすばらしい、意志と実行力をもった館長さんがいる図書館があるのです。これを生かささない手はありません。

ぜひ、しろね図書館の充実と発展を市をあげて応援して、長岡の図書館と共に、新潟県内でリーダーとなる図書館に育てていって欲しいです。

そして、今は白根に奉職していない私ですが、白根に負けないように公立図書館と連携をして、新飯田中学校の生徒に負けないくらい、本を読むことのできる生徒を育てることに力を注ぎたいと思います。良きライバルとして! (平成13年3月つごもり 記す)

～図書館員のお勧めする本～

## 『クラバート』 オトフリート=プロイスラー 作 (中村浩三 訳)

まず、表紙の「版画」がとっても雰囲気があるんです。文中に挿絵はほとんど出てこないのに、頭の中でこの「カラス」が駆け巡る。そんなインパクトがあります。

門付け(物乞い)をして暮らしていた14歳の少年クラバートは、奇妙な夢に誘われて、コーゼン湿地の水車場の弟子になります。この水車場には、左目に黒い眼帯をした親方と11人の弟子たちが働いていました。実は、水車場の親方は、11人の弟子たちに粉引きの仕事のほか魔法を教えたのです。

クラバートもやがて魔法を習うようになり、最初は喜んで教わっていましたが、やがて不可解な出来事や仲間の死が次々と起こります。

ある時、クラバートは気づきます。魔法の力は、人の命さえも自由にできること、そして、この水車場の職人たちは、親方の魔法によって毎年1人ずつ死ななくてはならないこと、それはいづれ自分の身にもやってくるであろうことも…

やがて、クラバートにも思いを寄せた少女が現れます。そして、クラバートは、彼自身と彼女の命をかけて親方の魔法の力を打ち破ろうと決心するのです。

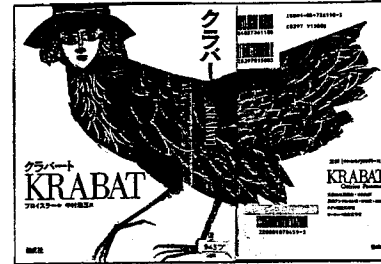
こんな暗い感じの物語ですが、凄しいところがたくさんあるんです。親方の魔法の力による絶対的な支配とそれに対する弟子たちの描写が細かく描かれていることに驚かされます。時には主人公のクラバート以上の存在感を漂わせる者もいます。仲間の告げ口をすることで親方に取り入ろうとする者、まぬけをよおって生き延びようとする者、反抗すまらずに見て見ぬふりをする者…。「自分はどの弟子に近い存在かな?きつと反抗はしていない…」などと考えてしまいました。

この物語は、クラバートが水車場で過ごす3年間で青年から大人へ成長していく過程が見事に凝縮して描かれ、ぐいぐい読み手を引き込む力を持っている作品だと思います。

是非、中高生の皆さんに1度は、読んでみて欲しいと思います。(横はさせませんよ!)

私のお気に入りの場面は、復活祭の晩、クラバートが「自分の体からぬけだす術」を使って、少女に会いに行く場面です。

クラバートが少女の持っているロウソクのあかりと一つになり、少女があかりをじっと見つめる。クラバートには、はっきりと少女の目が見えているのに、少女にはクラバートの姿が見えていない。見つめられクラバートは、自分の体に戻るはずの期限の時間をわすれてしまいうように…。 いい話じゃありませんか?



おっと、最後のPRをわすれるところでした!さて、親方に立ち向かう2人の結末はどうなるのでしょうか?それは、自分の目で確かめてください。

(ティーンズコーナー 943 プ)

[主筆 藤村 修]

原福をお知らせいただきありがとうございます



賞作野鳥の心でおもしろく作者は野鳥の心でおもしろく... (Vertical text on the right side of the page, partially overlapping the image area).

読書会に参加して  
(第五回読書会三月十八日)  
「時の筏」加藤幸子 著  
須田 英子 著